

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	おとべぎようすいさんせいさんきばんせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	音部漁港水産生産基盤整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成 25 年8月6日 ～ 令和5年3月 31 日
3. 事業費(工事費)	4,999 百万円
4. キーワード	掘込式漁港、高台移転後の被災跡地利用、水産業の生産性向上
5. 事業概要	東日本大震災により、漁港及び背後集落が壊滅的な被害を受け、漁港背後の住宅等建築が禁止された区域の土地を活用して、漁船が安全に係留するため掘込式漁港の整備を行ったもの。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)海洋、河川、道路、水産加工施設等に挟まれた狭小な作業ヤード、地中障害物等がある中で施工方法を工夫 (c)高台移転跡地へ掘込による水域施設・係留施設等の総合的な整備 (c)化粧型枠の採用	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)掘込漁港整備による漁船が安全に係留できる静穏域の確保 (d)ワカメ・コンブ養殖等の生産機能向上 (e)良好な景観形成の実現	() () () ()
7. 特にアピールしたい点		
【高台移転跡地を活用した掘込漁港の整備による静穏確保、ワカメ・コンブ養殖等の生産機能向上】 ○重茂半島の中でも最も外洋に面していることから、台風時だけでなく、多少の時化であっても漁港内の静穏域が確保されず、安全な漁船係留ができないため、漁船の陸揚げを余儀なくされていたが、外郭施設の整備により港内への越波を防止するとともに高台移転後の被災跡地を掘り込んで漁港を整備することにより、漁船が安全に係留できる静穏域の確保に加えて、漁港施設用地の整備によりワカメ・コンブ養殖等の陸揚げから加工・流通まで安全で効率的な作業につながり、生産機能の向上が図られた。 【海洋、河川、道路、水産施設等に挟まれた狭小な作業ヤードで施工方法を工夫】 ○海洋、河川、市道、水産施設建物に挟まれた狭小な現場条件の中、漁業活動との調整、海域の汚濁防止に配慮しつつ、道路及び河川の切替工事を複数回行いながら、外郭施設、係留施設、橋梁、道路、泊地等構造の全く異なる施設を早期に完成するため、最大7件の工事を同時に施工する厳しい条件となった。このため、発注者である県が中心となり、全受注者と工程会議を毎月開催する等、綿密な打合わせにより工程調整を行うとともに、問題・課題等を共有し発注者と受注者が一体となって、施工方法の工夫を行うなど課題解決を図り、工事を完成させたものである。		

8. 事業を代表する写真及びキャプション



整備前(被災時)



完成全景写真

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

- 音部漁港は、岩手県沿岸中央部における宮古市の重茂半島に位置する県管理第1種漁港であり、地域の中核的な漁港として、水産業振興のための重要な役割を担っている。
- 東日本大震災により、漁港施設のほか、漁港背後の集落も壊滅的な被害を受け、浸水したエリアは災害危険区域が設定され、住宅等は高台移転することになった。
- 漁港の復旧・復興に当たって、地元漁協及び漁業者と協議・調整を重ね、住宅等の建築が禁止された高台移転跡地を活用して、波浪の影響を受けず漁船が安全に係留できる掘込式漁港の整備を実施した。これにより、東日本大震災以前に進めていた激浪下での沖側への拡張整備に代えて、陸域での整備とすることで事業費の縮減と工期の短縮を図ることができた。



音部漁港背後地 被災後

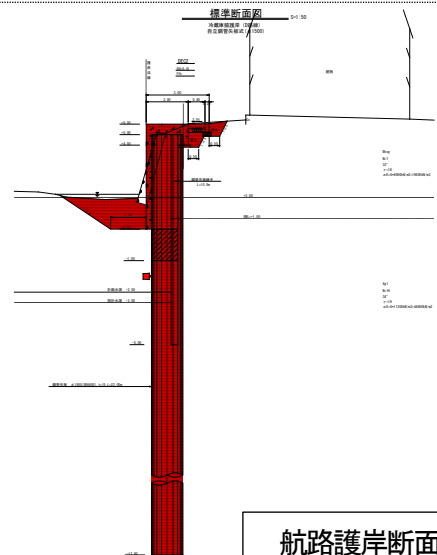


掘込により漁船が安全に係留できる静穏域を確保

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元（位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等）〕



水産加工場等が近接する厳しい条件下での施工が可能となる特殊な杭打設工法を採用した。



航路護岸断面図



三陸復興国立公園の特別地域内のため、航路護岸を化粧型枠仕上げとして、景観に配慮した。



航路上に架設する橋梁は、利用漁船が航行可能となるよう桁下高を確保した。



汚濁防止対策兼用の仮設道路を設置し、漁業活動への影響を軽減するとともに、港内への濁水流出防止を図った。



狭小な作業ヤードで、工事が錯綜する中、道路及び河川切替を複数回実施しながら、工程及び重機配置等施工エリアの調整を綿密に行い工事を進めた。